

本日、ここに平成23年第1回市議会定例会が開会されるに当たり、最近の市政の状況と、提案いたしました一般会計をはじめとする平成23年度当初予算案及びその他の議案につきまして、その大要をご説明申し上げます。

はじめに、今年の大雪に対する取組についてであります。

1月中旬から冬型の気圧配置が強まり、特に山間部では、断続的な降雪が続くなか、市民の皆様には、毎日の除雪や度重なる屋根雪下ろしなど、大変なご労苦があったと思います。

本市といたしましては、幹線道路や生活道路の除雪について万全を期すとともに、1月27日には、市内の指定観測点において地域警戒積雪深を超えたことから、平成18年豪雪以来、5年ぶりに雪害対策本部を設置し、防災行政無線や音声告知放送による市民への注意喚起、高齢者世帯等の見回りを強化するなど、積雪による被害の未然防止に努めたところであります。

しかしながら、同月30日からの更なる降雪により、市内において1の方が屋根雪下ろし中に転落してお亡くなりになり、さらには4人の重軽傷者が発生いたしました。また、空き家・倉庫など14棟の全半壊や雪崩による市道、県道の通行止めが2か所発生するなど、ここに被害に遭われた方々に対しまして、謹んでお悔やみとお見舞いを申し上げます。

また、本年の雪害を教訓に雪害対策要綱を見直すとともに、広大な市域を有する本市の自然災害等に対して、市職員が機動的に対応できる組織体制を整備しながら、今後とも十分な防災対策を講じてまいりたいと考えております。

一方、こうした豪雪のなか、常陸宮同妃両殿下をお迎えし、白峰スキー競技場において、中部日本スキー大会が開催され、白山ろく地域を中心とした選手が、石川県の総合優勝の原動力となったことは、市民に勇気と希望を与えてくれたものであり、その栄誉を称え、今後ますますの活躍を期待するものであります。

また、白山ろく各地域において、白峰雪だるままつりや、河内雪像祭り、瀬波かまくら祭り、木滑里山プロジェクト、東二口文弥祭りなど、数々のイベントや伝統芸能が開催され、利雪克雪に向け市民と行政が一体となって交流人口の拡大に努めており、今後はこうした活動を継続しながら、除排雪も含めた協働の取り組みが、更に他方面にも拡がりを見せることにより、本市の一体感の醸成と地域の活性化につながっていくものと期待をいたしております。

次に、北陸新幹線金沢開業まであと4年となった、新幹線事業についてであります。

北陸本線に平行して整備が進む新幹線の本線工事につきましては、今年4月以降、県道や市道上空に順次、桁を架設し、高架橋を連続させるとともに、早ければ年内の一部、レールの敷設が始まる予定であります。

また、車両基地関連工事につきましては、基地内を横断する道水路の付け替え工事が順調に進捗し、造成工事も本格化するとともに、変電設備などの建設工事についても、順次整備が進められます。

一方、県が策定した北陸新幹線開業に向けたアクションプラン「ステップ21」では、新幹線開業により首都圏からの入込みが60万人から91万人に増えると試算しています。

本市としましても、こうした交流人口の増加を地域活性化、特に観光面で活かすことが必要との認識から、4月の組織機構の改正に合わせ、現在の北陸新幹線整備対策室を開業対策室に再編し、2次交通対策や観光資源の魅力向上を図ることといたしております。

次に、平成23年度当初予算につきまして、その概要をご説明申し上げます。

はじめに、我が国の経済状況は、公的債務残高が先進国の歴史上最悪の水準に迫る勢いとなり、国内総生産においても中国に抜かれ世界第三位に後退する一方で、一部上場企業において増益の動きもあり、踊り場からの脱却との、景気判断もあり

ますが、依然として景気の先行きに対する不安は、拭えない状況にあります。

このような中、本市の新年度予算につきまして、歳入では市税、地方譲与税、交付税等の一般財源総額において、国の地方財政計画に基づく普通交付税の伸びを見込むことなどにより、おおむね前年度と同額程度を確保することといたしました。

一方、歳出におきましては、国の子ども手当の増額や北陸新幹線建設事業関連の市道の付替え事業費等の増高に伴い、前年度比7.5%増の、平成17年の合併以来、初めて当初予算において500億円を超える予算規模となりました。

私は、今回の当初予算編成に当たって、市民の一体感の醸成と地域間交流の促進を第一に考え、景気回復の遅れによる税収の低迷や社会保障費の伸び、さらに積年の景気対策に伴う公債費の増高など、大変厳しい財政状況の中、持続可能な行財政運営の確立に向け、経常経費や事業内容の一部見直しに着手いたしました。

新年度においても引き続き、市民の視点に立った事務事業の総点検を行い、いわゆる白山市版の事業仕分けに取り組んでまいりたいと考えており、議員並びに市民の皆様の一層のご理解とご協力をお願いするものであります。

それでは、平成23年度当初予算の主な施策につきまして、総合計画に基づき、順次ご説明申し上げます。

はじめに、「多様な資源に富む自然環境との共生」についてであります。

白山ろくの観光振興策の展開並びに宿泊施設の活性化を目的に、新たな観光地活性化事業を行う市内の関係団体に対し、観光資源の開発費や宿泊施設のバリアフリー改修経費などに助成を行い、観光地としての魅力増進を図っていくことといたしております。

また、世界ジオパーク認定を目指した取組としまして、運営母体である「白山手取川ジオパーク推進協議会」に対し活動支援を行うと共に、恐竜化石発見25周年を記念した記念講演やシンポジウムを実施し、認定に向けてその取組を加速してまいりたいと考えております。

次に、「心豊かで感性あふれる人を育む教育の充実」であります。

新年度より新たな取組としまして、小学校高学年を対象に3泊4日の「感性のびのび宿泊体験事業」を行い、ふだん子ども達が生活する環境と異なる生活や文化を体験することにより、道徳心を養い、郷土を愛する心を育くみ、地域間交流を一層推進することといたしております。

また、新年度において幼稚園や保育所、小中学校の制服や学用品などを有効活用し、相互扶助を推進するため、PTAなどのご協力を得ながら、再利用の取組を積極的に拡充してまいりたいと考えております。

また、これまで実施設計等を進めてまいりました、松南小学校改築事業につきましては、平成25年1月の開校を目指し建設工事に着手するとともに、朝日小学校改築事業につきましても、引き続き造成工事の進捗を図ることといたしております。

さらには、北陽小学校及び鳥越小学校大規模改造地震補強工事をはじめ、松陽小学校、湊小学校の耐震、耐力度調査を実施するとともに、美川中学校の改築に向け実施設計に着手するなど、合併特例債を有効活用しながら、義務教育施設の整備推進を図ってまいります。

加えて、地域住民の健康の保持増進と、生涯教育の活動拠点としての充実を図るため、公民館に付属する軽体育館の整備に、年次計画的に取り組むことといたしております。

次に、「参加と交流による一体感のあるまちづくり」についてであります。

昨年実施されました、国勢調査の速報値が先月公表され、本市におきましては、人口で約1千人、率にして約1%増加いたしましたが、白山ろく地域におきましては、残念ながら総じて人口、世帯数が減少しており、過疎化の歯止めと白山ろく地域の活性化が、喫緊の課題と強く認識いたしております。

このような中、白山ろくの地域づくり支援事業といたしまして、集落支援員を各地域に派遣し、住民と協働で地域づくりを推進するとともに、空き家対策事業としましては、空き家バンクを創設し、積極的な情報発信により、移住や定住の促進に

努めることといたしております。

また、白山ろくの造成宅地定住促進策としまして、定住補助金を交付するとともに、バイオ燃料設備の設置に対する補助制度を創設し、分譲促進を図ってまいります。

さらには、里山保全事業として耕作放棄地の有効活用と地域資源の保全に努めると共に、里山体験事業を実施し、若者と高齢者との世代間交流や平野部と山ろく部の地域間交流を推し進め、交流人口の拡大と里山の魅力発信にも努めてまいりたいと考えております。

また、北陸新幹線の開業効果を白山ろく地域にまで広く波及するよう、4年後を見据えた特産品の開発事業や波及効果が期待できる取組に対し、幅広く支援を行ってまいります。

加えて、松任まつりや白山ろく地域のイベントにおいて、地域間交流のため、主催者が運行する貸切りバスに対し助成制度を創設し、更なる交流促進を図ってまいります。

いずれにいたしましても、「白山ろく地域活性化推進本部」を中心に、スピード感を持って活性化に取り組み、それぞれの地域に暮らす方々が、住み慣れた地域に愛着と誇りを持って住み続けることのできる、環境づくりをしっかりと後押しすることが重要であると考えております。

なお現在、各種類似団体にそれぞれ交付しております、補助金や助成金につきましても、新年度に交付窓口の一本化に向け調整を図り、一体感の醸成につなげてまいりたいと考えております。

次に、「健やかに暮らせるまちづくり」についてであります。

核家族化の進行や地域住民相互の社会的つながりが希薄化するなか、高齢者の孤立化などの様々な課題に対して「地域福祉計画」を策定し、保健、医療、福祉をはじめ、社会福祉協議会などの各種施策との連携を図り、その解決策を検証、検討すると共に、あわせて地域福祉推進の拠点となります、仮称中央福祉館の建設について基本調査を実施いたします。

また、要介護状態の重度化により、施設入所を希望する待機者が増加している現状に対し、問題解決の一助となるよう、民間活力を活用した、「地域密着型特別養護老人ホーム」の整備に着手いたします。

さらには、放課後児童クラブの環境整備といたしまして、松陽コスモス学童クラブ、とりごえくまっこクラブの施設整備を行うと共に、クラブ運営経費についても、指導員の待遇改善を図ることといたしております。

次に、「安心して生活できる環境の整備」についてであります。

子宮頸がんやヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチンの任意予防接種につきましては、引き続き新年度においても国の補助制度を活用しながら、自己負担のないよう市としましても助成を行い接種率の向上に努めてまいります。

また、市内公民館におきまして、住民の安全安心につながる自動体外式除細動器AEDを今後2か年で配備し、地域活動への参加を促してまいります。

さらには、高齢者の交通事故未然防止の観点から、運転免許証自主返納支援といたしまして、住民基本台帳カードや、コミュニティバスの年間乗車定期券を無料交付するなど、自主返納者に対し利便性の確保を図ってまいります。

また、地域防災の中核を担う消防団の消防ポンプ自動車の更新につきましては、年次計画に基づき、河内、白峰地域において整備更新を行ってまいります。

次に、「利便性が高く住み良い快適なまちづくり」についてであります。

北陸新幹線建設に伴う市道付替え工事や、金沢外環状道路海側幹線に関連する取付け道路の整備など、各種インフラ整備につきましては、後年度の財政負担を考慮しながら、住み良いまちづくりに向け、年次的に整備を進めてまいりたいと考えております。

また、定住人口の拡大と住環境整備を図るため、鶴来地域の曾谷町周辺において、組合施行による土地区画整理事業の実施に向け、事業調査に着手することとし、新たな市街地形成を目指してまいります。

次に、「地域産業の新しい可能性への挑戦」についてであります。

白山ろく地域における有害鳥獣対策など、その中心となって駆除等に尽力していただく、猟友会の後継者不足等に対する支援策としまして、銃猟免許やわな免許の新規取得経費などについて、新たに補助制度を創設いたします。

また、定住促進と雇用環境の創出、さらに地域の活性化を目指し、山島地区で検討している新たな工業団地の整備について基本調査を行うこととし、関係機関、地元との協議調整を始めるとともに、その進捗状況に合わせ測量、基本設計に着手していきたいと考えております。

最後に、「健全で効率的な行財政基盤の確立」についてであります。

各種施策の根幹として平成18年度末に策定しました、市総合計画につきましては、計画策定から4年が経過し、今般、後期基本計画の見直しを行うための、所要の経費を計上するとともに、観光事業特別会計の繰上充用金について健全化計画に基づき減額を図ることとし、さらには、上下水道料金検討委員会からの答申を尊重し、公営企業の経営健全化を推進してまいります。

また、職員の定員適正化計画に合わせて、白山ろく支所組織の一部集約化及び、宿日直業務を見直すための支所当直センターを整備するとともに、関係公社役員及び審議会委員等の選任に当たっては、より多くの市民の市政参画が図られるよう、基本方針を一部改正するなど、効率的な行財政基盤の確立に向けた、取組を進めてまいります。

以上が、平成23年度当初予算における概要であり、一般会計当初予算額といたしましては、503億3,200万円を計上し、その財源として、市税152億7,791万円、地方交付税120億5千万円、国・県支出金81億3,101万5,000円、市債77億7,840万円などを充て、収支の均衡を図ったところであります。

また、特別会計では、国民健康保険、介護保険、工業団地造成事業など10特別会計並びに水道、工業用水道、下水道の3事業会計において、総額316億8,918

万8,000円の当初予算編成を行いました。

次に、議案第24号から29号までの平成22年度補正予算についてであります。

一般会計につきましては、その主なものとして、誘致企業への土地、建物取得事業費への助成金や、観光事業特別会計の繰上充用金を早期に解消するための繰出金のほか、各種事業費の確定に伴う財源調整など、補正額は4億7,143万4,000円の増額となっております。

また、国民健康保険、工業団地造成事業など5つの特別会計で、直営施設への繰出金や土地代金支払猶予による事業費調整などにより、総額14億3,788万2,000円を、減額補正いたすものであります。

なお、国の一次補正関連事業や地域活性化・きめ細かな交付金事業など計38件の事務事業につきましては、次年度へ繰り越すことといたしております。

次に、議案第30号から55号までの条例案の主なものについて、ご説明申し上げます。

「白山市自治基本条例」につきましては、市民参加によるまちづくりの基本事項を定め、市民と共に自治の進展を図り、活力に満ちた地域社会の実現を図るものであり、「白山市伝統的建造物群保存地区保存条例」につきましては、伝統的建造物群の保存を推進し、本市の文化的向上に資するため、その保存地区の決定、その他必要な事項を定めるものであり、「白山市職員倫理条例の一部を改正する条例」につきましては、市長等の政治倫理基準として、市からの補助金を主たる財源として運営する団体の代表者への就任の自粛を図る規定を追加するものであり、「白山市特別職の職員で非常勤のもの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例」につきましては、農業委員会会長等の報酬金額を近隣他市の状況を勘案し、見直しを図るとともに、新たに設置する審議会の委員報酬の規定を追加するものであります。

また「白山市手数料条例の一部を改正する条例」につきましては、運転免許を返納した高齢者に対し、住民基本台帳カードの交付手数料を免除することについて、



必要な改正を行うものであり、「白山市スキー場施設条例の一部を改正する条例」につきましては、「河内千丈温泉金沢セイモアスキー場」の名称を「白山千丈温泉セイモアスキー場」に変更することとし、必要な改正を行うものであります。

次に、議案第56号から66号までの事件処分案につきまして、その主なものをご説明申し上げます。

「市道路線の認定」につきましては、道路法の規定に基づき、「指定管理者の指定」につきましては、3件5施設について指定管理者となる団体の名称及び指定の期間について、地方自治法の規定により、「建設工事請負契約」につきましては、入札結果に基づき条例の定めにより、それぞれ議会の議決を求めるものであります。

議案第67号の補正予算の専決処分の承認につきましては、市道の除排雪経費4億4,700万円の増額補正を行ったものであり、議会の承認を求めるものであります。

以上をもちまして、今定例会に提出いたしました議案の説明を終わりますが、何卒慎重にご審議の上、適切なるご決議を賜りますようお願い申し上げます。